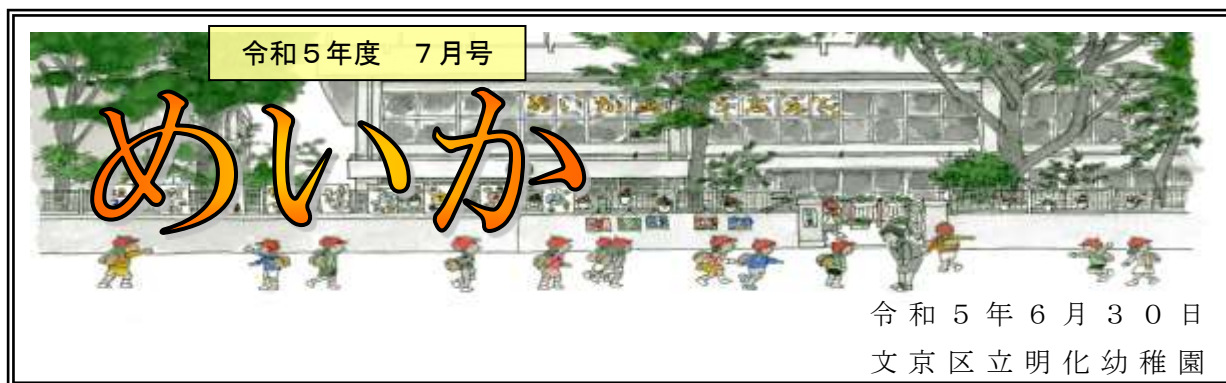




園舎への思い

園長 池田 克子

1階廊下や2階の窓から新しい園舎が見えます。いよいよ新しい園舎に引っ越す日が近付いてきました。先日、年長組の子どもたちに「もうすぐ新しい幼稚園に引っ越だね」と伝えると「ちょっと寂しいな」「今の幼稚園がいいな」という声が聞かれる一方、「新しいきれいな幼稚園、楽しみだね」「新しい幼稚園でも大きい積み木で遊んだり、工作したりできるかな」という声も聞かれました。今の園舎への愛着と新園舎への期待と子どもたちの気持ちも様々でした。

引っ越しに向けて、園長室の書類を整理していると、創立10周年記念の記念誌が目に残りました。開いてみると、明化幼稚園開園当時にいらした先生方の座談会の記録が残されていました。その中で、初代園長 川合八郎先生が「けちな幼稚園ならお断り、施設は誰に見られてもみっともくなくないようなものを作ってほしい」と区へ要望したと書かれていました。明化幼稚園は、昭和41年4月1日に、明化小学校内に併設して創立、同5月1日に開園しました。木造の校舎、プレハブ仮園舎を経て、現在の鉄筋の園舎が、昭和46年に設立されました。園舎設立の際には、当時の先生方が、他の幼稚園をいくつも見て回り、良い点をチェックしてきて、設計図を書いたり意見書のようなものを出したり、非常に細かい注文をされたとも記されています。歴代園長先生を初め多くの先生方、修了児、保護者や地域の皆様と、たくさんの方々の思いの詰まったこの歴史ある園舎での生活もあと少しとなります。皆様のその思いと明化幼稚園の長い歴史をしっかりと受け継ぎ、新しい園舎での教育活動を進めていきたいと思っています。

1学期も残すところあと1ヶ月となりました。学期の終わりにあたり、子どもたちの生活を支えてくださった保護者・地域の皆様に感謝申し上げます。



昭和46年頃の園舎と正門(創立10周年記念誌より)